

これからの製造業と プレス加工業が勝ち残るための 意識改革

小松技術士事務所
小松 勇

(こまつ いさむ)：所長・技術士
〒252-0211 神奈川県相模原市中央区宮下本町 1-24-9
TEL：042-755-8927

製造業が成り立つための大前提は 「製造する物、つくる物」があり続けることである

製造業の重要分野の一つプレス加工業も「作るものがあり続けること」を大前提に成り立っており、プレス加工業がさらに発展していくための条件は「作る物が増え続けること、仕事が増え続けること」でなければならない。

しかし、増え続けていても企業間競争は永久に続き、生き残れる機会は徐々に狭まっていくのを歴史が示しているし、昨今の車の電動化は2025年、2030年、2035年と5年刻みで大変革を迎え、エンジン駆動の車は過去に作られた車だけが残っているという時期が来ることは間違いない。

車の電動化でなくなる部品があれば、新しく生まれる部品もあり、材料が変わりプレス加工品ではなくなる部品もある。例えば、ブレーキについても電動車は電気ブレーキが主になり、従来の摩擦ブレーキは補助ブレーキ的に縮減される。すなわち、「増え続けるもの」が様変わりになると考えている。

1950年代から始まった家電輸出、その後の自動車輸出、半導体輸出の増大が貿易摩擦を生むほど増大したお陰でプレス加工業も発展を続けることができたが、その反面、コストダウンに追われ、「地産・地消」の流れが加わった。日本国内プレス加工業にとって「発展」の二の字の影が薄くなった。

日本のプレス加工業を長く支えている「物」の中心は自動車部品で、その様子は表1で明らかである。プレス加工に不可欠な金型の生産でも自動車部品（金属部品、プラスチック部品、ゴム部品などを含めて）が支えている。

表1 2020年7月度のプレス加工品の生産金額
(一般社団法人日本金属プレス工業協会資料より)

1. 製品		提出先	経済産業省
用途別	販売額(千円)	提出期限	月末締め
自動車用	10,941,038		
産業機械器具用	477,782		
厨・暖房機器用	124,356		
電気機器・通信機器用	293,197		
その他用	719,638		
合計	12,556,011		
		2. 原材料	
		消費量(t)	33,698
		金額(千円)	3,707,946
		3. 労務	
		月末常用従業者数(人)	10,044